

遺跡紹介

森の木遺跡 大分県最古の集落遺跡

森の木遺跡は、佐伯市大字長谷森の木に所在し、大越川左岸の河岸段丘上に立地します。

森の木遺跡は佐伯より国道二二七号線を南下、上堅田下城地区にて左折し、県道六〇三号線をさらに南下。大越地区入口手前、竹角方面への道路との交差点左手の段丘上にあります。

森の木縄文遺跡



この地は平成二十一年度東九州自動車道(佐伯―県境間)の建設工事に伴い発掘調査した箇所の隣接

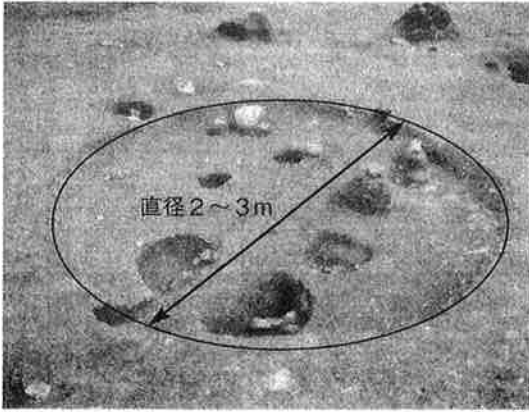
地になります。

四月二十六日より八月十日まで、平成二十二年度東九州自動車道(佐伯―県境間)の建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査が行われ、その成果が先日、現地説明会という形で報告されました。



平成22年度に発掘調査された森の木遺跡
(右手の台地状の所は21年度発掘調査地)

森の木遺跡からは、縄文時代早期(約八〇〇〇年前)の
竪穴住居跡が二十六棟発見されました。
大分県内では、最も古い集落だそうです。

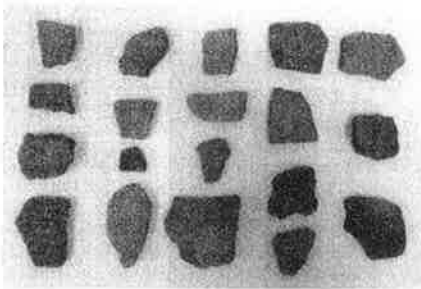


この他にも旧石器時代(約二万年前)〜中世(約六百年前)の石器や土器が確認されており、この場所
で長い期間人々が営んだ生活の痕を見ることが
できます。

竪穴住居の形は、円形のも
が多く、大き
さは直径が二
メートルです。

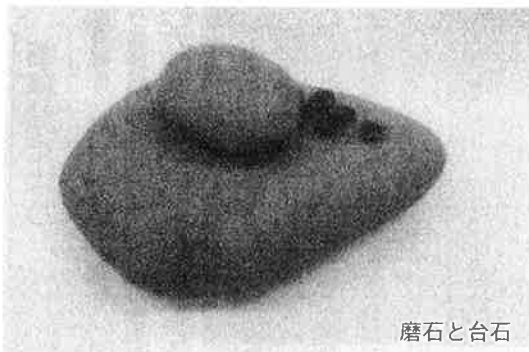
このことか
ら、一棟に数人

また、住居跡地は丘陵の尾根状に立地しており、水はけ
の良い土地であったとも考えられています。
住居の中からは、当時の人々が使用した縄文土器や石
器が見つかっています。当時の住居の中には炉や竈がな
く、屋外に石を集めて調理した集石遺構として発見され
ました。石は被熱で赤くなっていました。



縄文土器片と集積遺構(調理場)





磨石と台石

また、住居の近くから煙道のついた炉穴が見つかっています。燻製を作る施設ではという説があります。発見された土器は、押型文土器や無文土器が数多く見つかっています。この事からも、この遺跡が縄文時代早期（約八〇〇〇年前）のものという事がわかります。文様のなかには、スグレやハシゴのように見えるものもありました。

その他に。狩りに使用する鎌やじりや漁労に使用した石錘（石のおもり）、土掘り、木の伐採に使う打製石斧、ドングリを磨りつぶすための磨石と台石など、多種多様な石器が見つかっています。

森の木遺跡から発見された石器の主な石材は、地元で産出



姫島産黒曜石

（参考）

黒曜石とチャート

チャート（頁岩）は、軟泥が長い間に固まってできた堆積岩。ほとんどが無水珪酸からなる。俗に火打ち石といわれ、鉄片と打ち合わせて発火具として使われた。又鎌や石槍などにも使用されていた。

黒曜石は、黒色・灰色の瑠璃光沢を有する火山岩である。破口は貝殻状の断面を持つガラス質のものが多い。姫島の観音崎噴火口周辺に分布する。鎌や、槍先などに使われる。

するチャートですが、大分県姫島や佐賀県有明海沿岸で産出する黒曜石もあります。

この事から森の木遺跡の縄文人は、広く海を介した交流を行っていたのではないかと考えられます。

（森の木遺跡見学会資料参照）